

Nihongo Network News

2003.9.12発行

No. 43

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

ますます 関心が高まる 地域の 日本語教育

日頃、日本語ボランティア活動に携わっている方々にとって最も関心のあるテーマが、最近、開かれた日本語教育関係の主要な大会で相次いで大きく取り上げられました。

一つは、5月24日（土）と25日（日）に一橋大学で開催された2003年度日本語教育学会春季大会。もう一つは、8月5日（火）と6日（水）に昭和女子大学で開催された平成15年度「文化庁日本語教育学会」（東京大会）です。

まず、5月24日に行われたシンポジウムのテーマは「外国人の定住と日本語教育」。外国人の定住に関わる諸問題を取り上げ、いろいろな問題提起をしたいという考えで企画されたものです。

パネリストには、多角的にこの問題を考えていくために、在日外国人定住に関して広い角度から扱ってきた田中宏氏（龍谷大学）、弁護士として在日外国人問題の現場に詳しい吉野正氏（日弁連国際交流委員会委員長）、国際教育・開発教育の専門家でも地域の問題にも関わってきた山西優二氏（早稲田大学）、「東京宣言」などで日本語教育の面から発言してきた山田泉氏（法政大学）の4

人が招かれました。（司会は龍谷大学の田尻英三氏）

吉野氏の「外国人の定住と権利保護」は、「少数者と多数者との摩擦と権利侵害」、「人権としての言語と権利擁護の体制と実際」、などについて具体的な事例を紹介しての発表でした。また、山田氏は「多文化・多言語主義と子どもの発達」と題して、今ニューカマーの小学校・中学校・高等学校の子どもたちに起こっているアイデンティティの危機問題や進学指導の中での厳しい現実について語り、それらの問題を言語面での発達の観点から考えることを提唱しました。

文化庁日本語教育大会では2日目の8月6日に、シンポジウム「地域における

ネットワークの構築～日本語支援のさらなる広がりを目指して」が行われました。

また、研究協議会では、「年少者の日本語学習支援について考える—授業のヒント」のテーマで各分科会で発表と討議が行われました。

地域に居住する外国人家族の抱える問題は多岐にわたっているので、適切な対応をするためにはさまざまな関連機関や専門家の協力を得られるかがカギとなってきます。そこで、上記シンポジウムでは、異文化コミュニケーションや心理、福祉の専門家による地域への働きかけの事例を基に、専門家の立場からの知見の紹介、加えて、地域において支援の拡大のためのネットワークの構築に向けて展開されているさまざまな活動の紹介、今後のネットワークの構築に向けての在り方などが話し合われました。

両大会、特に後者では地域の日本語支援活動に携わっている人々の参加が多数見受けられました。日本語教育をリードする大きな大会が地域の日本語教育問題を大きく取り上げざるを得なくなってきた現実を強く感じさせられました。

（西岡）

日本語ボランティアと日本語教育

寄稿

東京大学／日本語学習支援研究会 栖原 暁

E-mail : suhras@ic.u-tokyo.ac.jp

縁あってTNVNの運営委員を2001年4月から2年間務めさせて頂きました。運営委員会での議論を通じて多文化社会化しつつあるといわれてすでに久しい地域社会における現場の一端を垣間見る思いがして、大変よい経験になったと思っています。私がTNVNにかかわったことがきっかけの一つになり、2001年9月に「日本語学習支援研究会」が生まれました。これも思わぬ成果でした。

地域行政による 日本語支援の多様性と混沌

さて、日本語学習支援研究会では、東京都23区の在籍外国人に対する支援、特に日本語支援について聞き取り調査をしてきました。これによると東京都23区で、行政として在籍外国人に対して何らかの日本語支援を行なっているのは、20区に達していますから、約87%の区で在籍外国人に対して何らかの日本語支援が行なわれていることとなります。これらを、一定のカリキュラム、教材などをあらかじめ準備して行なわれる日本語教育型（Aタイプ）、参加外国人の個々のニーズに応じて自在に対応する地域活動型（Bタイプ）、AとBの両者を並行的に行なうCタイプに分けると下表のようになり、Aタイプが大部分を占めます。しかし、このAタイプの中には、さまざまな形態が混在しています。プロの日本語教師に講師を依頼している区、「ボランティアの先生」という言葉を使いつつ有償で行なっている区、あるいは全く無償でボランティアに依頼している

Aタイプ (16区)	千代田、中央、港、新宿、台東、墨田、品川、大田、世田谷、渋谷、中野、杉並、豊島、北、板橋、練馬
Bタイプ (3区)	文京、目黒、葛飾
Cタイプ (1区)	荒川

区、地域のNPOに委託している区、などがあります。ボランティア、日本語教師、有償、無償、プロ、アマなどの言葉が入り乱れ、混在しているのが現状のようです。しかし、全体としてみれば、多くは週1回ないし2回程度の規模の小さなものですし、在籍外国人支援に関する区としての方針について明確さよりもむしろ曖昧さが強く感じられました。

日本語ボランティアの エネルギーはどこに向かうのか？

一方、民間で行なわれている日本語ボランティア教室は、市部も含めると東京全体で350位あります。仮に各教室が毎週2時間ずつ活動を行なっているとしても全体で週700時間ほどになります。日本語支援活動の内容はさまざまなので、日本語学校などとの単純比較はできませんが、時間数だけでみると、学生数100人規模の日本語学校7つ分、また東京にある国立大学留学生センターを全部カバーしてもおつりがだいぶ来るほどになります。

近年は全国的にも展開されつつある、こうした巨大な市民エネルギーにはただただ目をみはるばかりですが、よくみると行政の3タイプにも似た多様性が含まれており、今後これらがどの方向に向かうのか興味深いものがあります。文化庁のようにこれらを一括して「地域における日本語教育」として捉えるのもやや我田引水に過ぎるようにも思われる一方、現実には、日本語教育者の実践訓練的機能を担う「日本語教育の底辺化」への流れや、地域行政から日本語教育を委託される「プロ集団」に変形していく動きなどもあるようですが、いずれにしても到来しつつある多文化社会に対応した「地域住民による活動」という視点に立ち返って現状を整理し直す時期に来ているのではないかと強く感じることの多い今日この頃です。

教材！ 会話が弾む



ボランティアに使える教材紹介を教材にとらわれず、どのように教えられるかといった観点から捉えてみました。

ボランティアの教室活動で欠かせない物のひとつは、メモ用紙です。

入門・初級の人には特に効果的です。わかりづらい時に絵を書きながら説明すると、より早く理解できるようです。ひらがな（カタカナ）・漢字・アルファベット（ABC……）で会話の内容を書きながら、不自然な言い方の箇所にアンダーラインを引き、会話に一区切りがついた時点で見直しながらチェックすることもできます。

自分のノートにメモ用紙から書き写している学習者がたくさんいます。メモ用紙を気にせずに使える方法はない

ものかと考えていました。

知り合いの不動産屋に学習者の部屋探しに行った時、そばに積まれた大量のチラシ（裏はほとんどが白紙）が目に入り、訊ねたところ、捨てるとのこと。メモ用紙として頂くことにしました。これはとても役に立っています。

「日本に来て、ひらがな・カタカナから勉強し、読み書きが出来るようになり、日本語の中で生活しているうちに意味不明の日本語の意味がわかるようになります。単語量も増え、その意味と使い方がわかってきても、どんな単語をどの形でどの順番にどうやって口から出したら良いのかわからない。不安なので、なかなか話せるようにならない」また、「ほかの人が話しているのを聞いて、変だなと感じたり間違いはわかるけれど、自分では正しく話しているつもりでも自信がない」という学習者からの声をよく聞きます。

会話の糸口になるようなもの（こと）、日本語学校で使っているさまざまな教科書も参考にはなりますが、お互いに話しやすく、話したくなるようなもの（こと）は、日常生活の身の回りにあるもの（こと）です。雑誌・パンフレット・メニューなども教材として使えますが、何よりも手軽に使えるものは新聞とその折り込み広告だと思います。

これはとても便利で、季節ごとの最新情報が、日本文化を含め入手でき、日本語学習の生の教材として入門から上級まで活用できます。

スーパーや専門店の安売り商品や土

地・マンション・家の売り出しなどからスポーツクラブ・医療品・美容器具・ビューティーサロン・マッサージ・医者・病院・カルチャー教室・進学塾の案内。国内や海外旅行・ローン（貸し金）・財テク・宅配・引越し・不用品引き取りの案内、ほかに、葬儀社・メモリアルホール・墓地・墓石・霊園の案内など、きりがいいほどです。社員・アルバイト・パート・ヘルパー・スタッフなどの求人募集や区報も、そのすべてが生きた教材になります。

広告を見ながら不動産屋さんから頂いた案内物件チラシの裏紙に書いて話を進め、時にはこのメモ用紙自体も教材にしています。紙はたくさんあるので気にせず使え、その場で書いたものは帰りに欲しいと言う学習者に渡しています。話しながら書く文字と絵は読めるのかな？と心配したり、汚くて恥ずかしいとも思いますが、家で思い出しながら勉強している学習者にとって、汚い字でも読めるようになればそれも有りかな等とプラスに考えるようにしています。

楽しみながら学習できるように工夫していますが、「私はこんな方法でこんな教材を使ってうまくいっている」と言うボランティアの方達もたくさんいらっしゃると思います。

あなたのアイデアをお知らせください。

山本敬子

中央公園日本語教室（北区）

日本語の勉強も 挨拶のことばから

「こんにちは」人と会った時、まず発するのが挨拶のことばです。

日本語の勉強も、挨拶のことばから始めます。

朝、昼、晩、いつでも同じ挨拶のことばを使う言語もありますから、日本語では、朝は「おはようございます」、昼は「こんにちは」、夜は「こんばんは」と、使い分けることを知らせなければなりません。太陽や月の絵を描いたりして、何時ごろから「こんばんは」になるのか、具体的に見せたりします。夜中に「こんにちは」と言わないように。

ところが、イタリア人の女性が午後、留守番電話に残したメッセージを聞いて愕然としました。「ローレナです。また、夜に電話します。こんにちは」

もう一つ、笑い話のようなエピソードがあります。日本人の家庭にホームステイしていたア

メリカ人の高校生が、ある日曜日、お昼ごろに起きてきて、「お母さん、こんにちは」と言ったということです。

イタリア人の女性もアメリカ人の高校生も「こんにちは」を使う適切な時間帯は知っていたのに、「別れる時には使わない」「同じ家に住んでいる家族などには使わない」ことを知らなかったのです。というより、教えてあげなかったのです。一方、こ

ちらもイタリア語の「ボンジョルノ。(こんにちは)」は、「良い日を！」という意味で、別れる時も使えるのだと気づかされます。

また、日本語を勉強する時、「これは本です」という表現が出てきますが、実際にはどんな時にこう言うのでしょうか。

ゲームで、袋の中に入っているものが何か、手探りで言い当てる時に、こう言うかもしれません。また、今までに一度も本を見たことがない人(もし、そんな人がいれば)に、「それは何ですか」と聞かれたら、こう答えるでしょう。

日本語の勉強では、目の前に本を置いてこう言いますから、「これは日本語で本と言います」という意味になると思います。

それでは、「私は日本人です」と、「私はひつじです」「私はラーメンです」は、実際には、どんな場面で使っていますか。また、どういう意味でしょう。

「それはお金じゃありません」「(私は) お金がありません」「(私の) お金がありません」この3つの「ありません」を混同してしまう学習者がいました。どうしたらいいでしょう。ついでに「あしたは学校がありません」も考えてください。因みに、最近は、「(私は) 子供が3人います」と言う人が多いようですが、以前は、「(私は) 子供が3人あります」と言っていました。

なにげなく使っている日本語ですが、ちょっと見方を変えると面白いことをたくさん発見します。外国人の間違いから教えられることもよくあるでしょう。

(林川玲子)



TAMA日本語共有ネットワーク

〒180-0022武蔵野市境2-14-1 スイグビル9F武蔵野市国際交流協会気付
mia-nihongo@mia.gr.jp

TNVNと同じく東京都にあるネットワークTAMA日本語共有ネットワークの7月の例会が7月26日にあり、終了後、代表の吉村多恵子さんや創立発起人の1人、杉澤経子さん他にお聞きしました。(床呂)

●創立時と経緯

2000年3月25日創立。多摩地区の日本語ボランティア団体の情報交換は、三多摩国際交流ネットワークと、その活動を引き継いだ三多摩日本語識字ボランティアネットワークが実施する、日本語教室交流会などで行われてきたが、各々が多忙で休止状態になっていた。4年前に武蔵野で開催されたシンポジウム参加者の熱心な要望を機に、新しくネットワークを立ち上げ、情報交換、相互研修などを実施している。

地域日本語の現場では、「隣人」として、また「同じ地域に暮らす市民」としての人間関係のあり方が模索されています。しかし、活動自体が日本語を教えることが中心となるため、その関係はどうしても「先生 vs 生徒」というような支援する側と支援される側に固定化されやすいといえます。

そこで、武蔵野市国際交流協会では、国際理解教育における「参加型学習」の活用を考えました。地域日本語の場は、多文化の人々が共に活動する場であり、まさに日本語を通じた多文化共生の場といえます。日本語学習活動をとおして異文化理解や他者理解を深めることができるな

●名前

「たまたま集まった人たち」「多摩地域」「玉のようにまるく和やかに」そして「活動の核は日本語に置く」「参加者が共に学び育つことのできるような活動を目指す」という思いを込めて名づけた。

●基本的な姿勢

- ◎顔の見える関係を大切に。そのために定例会を隔月に開催。
- ◎隔月に定例会を持ち意見を交換する中で、共通の課題を拾いあげ、議論の場として機能させる。
- ◎お金がかからない活動を。
- ◎気負わず気軽に、しかし出席してよかったと思える会にしていこう。

ら、参加型学習は「人」としての対等な関係性を築ける一つの方法といえるかも知れません。2001年からTAMA日本語共有ネットワークの皆さんとの協働で実践研究をしてきましたが、いくつかの手法は大変有効であることがわかりました。この秋には『地域日本語～ときどき参加型学習ブックレット』（仮）と題して冊子を発行する予定です。TAMA日本語共有ネットワークでこの3年間話し合われてきた地域日本語活動の課題なども収録される予定です。

参加型手法ってどんなものか興味のある方は「地域日本語支援スキルアップ講座」にぜひお誘い合わせのうえお越しください！

●会員

16団体

●定例会

隔月に開催。21回開催した。議事録はMLで会員に流すと共に、ML「あちこち」にも流している。

●研修会等

講演、ワークショップ等を実施している。本年は下記のイベントを計画している。皆さんの参加を期待したい。



ひろげてみませんか 教え方、学び方！

参加型学習ワークショップ

- ◆日時：11月15日(土) 10:00～13:00
- ◆場所：武蔵野スイグビル10階
(JR武蔵境駅北口駅前徒歩1分)
- ◆内容：「部屋の四隅」「フォトランゲージ」「いいとこさがし」「二頭のロバ」などの参加型手法の活用法
- ◆講師：伊東祐郎氏(東京外国語大学教授)
山西優二氏(早稲田大学教授)
- ◆申込み：当日直接会場へ！
- ◆参加費：無料
- ◆主催：TAMA日本語共有ネットワーク
(むさしの国際交流まつり
参加イベントとして開催)

Nice to Meet You

子どもへの日本語学習支援
課題も多いが教室は楽しいです！

日本語ぐるりっと(子どものための日本語教室)

飯島 時子 (大田区)

「日本語ぐるりっと」は、2002年2月から大田区で子どものための日本語教室を月・水・金の午前中と水曜日の午後を開いています。それ以外にも教材作成や勉強会などをおこなっています。子どものための日本語教室を開くきっかけとなったのは、品川区にある老舗のボランティア日本語教室での体験からです。ここで知り合った何人かのメンバーが、1998年、まず教材を作るた

めに「日本語ぐるりっと」を結成し、そして教室をもつに至りました。「ぐるりっと」とは日本語をめぐる環境全体を表しています。この教材は「学校生活にほんごワークブック」という小学校高学年・中学生向けの教材で凡人社から出版されています(¥1,300)。

年少者への日本語学習支援で、気をつけなければいけないことのひとつに「発達段階」があります。特に年齢の高

い子どもには、来日後の早い時期から自主的な生活が送れるようにすることが大切です。そのためには、ある程度の日本語力をつけ自信をもたせなければなりません。低学年の子どもには思考を形成するための「言語」という問題があり、これは母語との関連で捉える必要があります。

このように生徒個人の将来を担うお手伝いをするということは、家庭や学校や社会との連携を必要とする活動でもあり、多くの課題を抱えながら日々奔走しています。



10周年を迎えました

まちだ地域国際交流協会

会長 大原 徹夫 (町田市)

■まちだ地域国際交流協会 (MIFA) 表彰される

MIFAは昨年末に東京都社会福祉大会において東京都からの表彰を受けました。約10年活動しているボランティア団体を対象にしたもので、日本語支援団体では初めての表彰だそうです。これまでの活動が社会に認められたものとして、私たちには大きな励みになりました。今後さらによりよい活動をして社会に貢献したいと思っています。

■MIFAの活動

1993年4月に東京都の南西部町田市で外国人との交流・共生をめざして、

MIFAは発足しました。おかげさまで今年設立10周年を迎えました。

今、教室は5教室で、月、火、木、土曜日の午前と木曜日の夜、市から無料で借りている会場(町田市民フォーラムなど)で日本語学習支援をしています。学習者は約100人です。12カ国の外国人がいますが、韓国人、中国人が多数を占めています。日本語能力試験に挑戦する学習者が多く、昨年末の試験でも多数合格しています。支援者は2002年度末現在で在籍108人です。1対1で支援しています。



学習支援以外の活動としては、パーティーやハイキング、教室の懇親会、学習者を

講師にした勉強会などを催しています。また、ニュースを毎月発行しています。

■10周年記念行事

今年は、10周年記念行事として記念文集の発行のほかに、「地球のステージ」公演、シンポジウムなどを計画しています。10月18日(土)の午後、町田市民フォーラムの3階ホールで開催します。詳細はTNVNのホームページにも出してもらいますので、お近くの方はぜひご参加をお願いします。

入院で感じたこと

金谷玉琴 / 中国出身

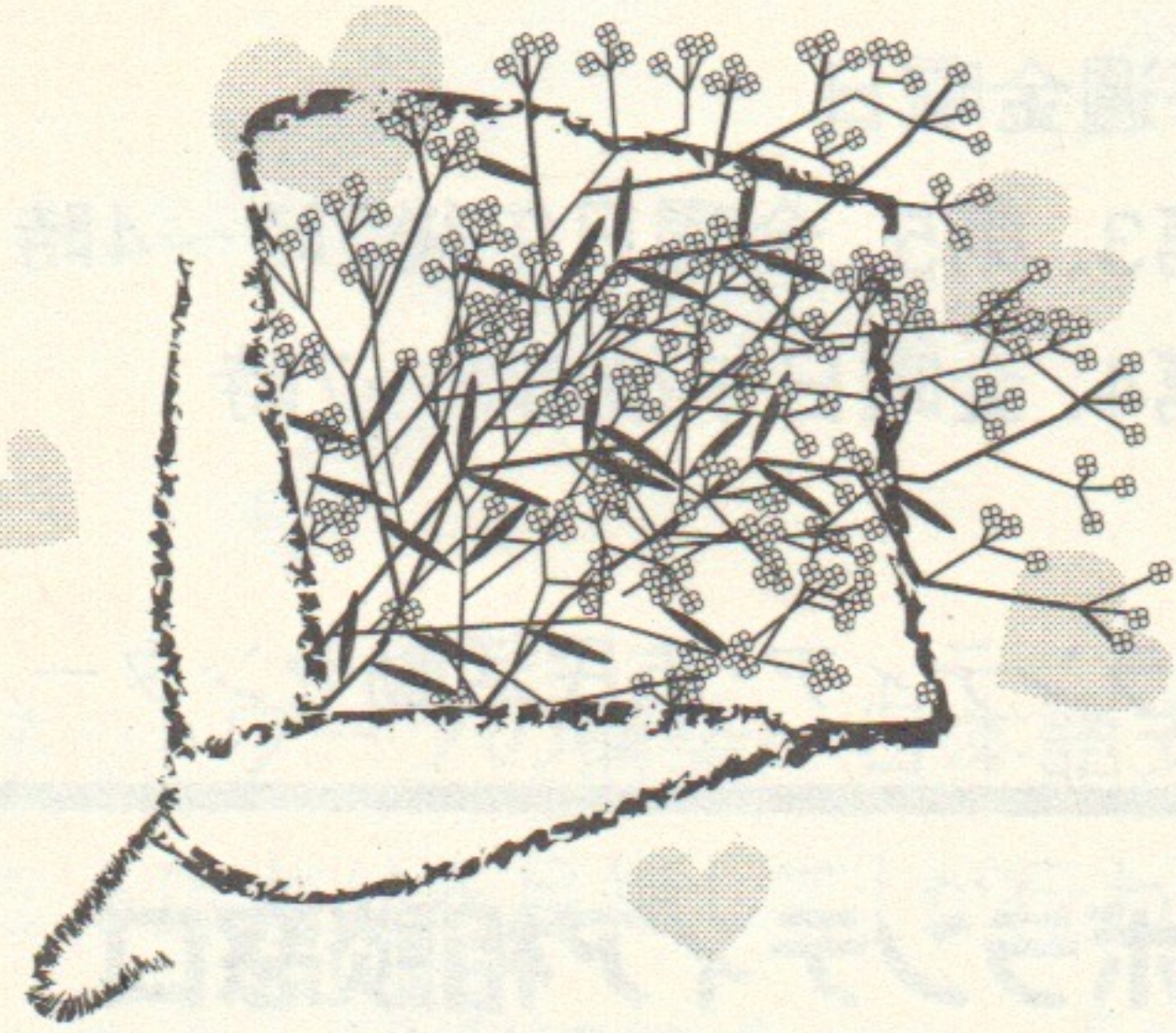
初歩日本語 (練馬区)

学習者の声

ら遠くなっていくような気がした。そんな時、日本語教室の先生方やクラスメート達が次々に見舞いに来てくださって、教室のこと、勉強のこと、クラスの人たちのことを聞き、また病気の注意や激励もいただいた。また舞踊会の方達も今の様子や自分達の経験も交えて励ましてくれた。

病気の不安、生活上の孤独感などが、皆さんにお会いして吹き飛ばすような感じで、大切な生活がもどってきたような自信が湧き出てきた。皆さんの気持が私に勇気を与えてくれたと思う。

入院生活で、今までのくらしで気が付かなかったこと、見えなかったことが見え、深く感じさせられた。皆さんのおかげで、私は外国人や病人ということを忘れることができた。リハビリに専念し、早く体力を付けて皆さんの所へ戻りたい。



六月初旬のある朝、左の足が重く、力が入らない。頭もすっきりしない。風邪かなと軽く考え、翌日病院へ行ったら脳梗塞と聞かされてびっくり。すぐ入院した。

初めての入院、狭い空間、限られた行動範囲、規定された食事、聞き慣れない声、毎日見ていたテレビもなく、あるのは薬、点滴。目に映るのは白衣の天使と医者と患者。時には点滴の針と液もれに悩む。

今まで私は早く日本の生活になじめるよう一生懸命に日本語の教室に通って勉強してきた。ボランティアの先生の親切と熱意のおかげで、私の日本語も相当進歩したと思う。また日本文化に接触して理解を深めるため、日本舞踊の活動にも参加した。舞踊会の先生や先輩の教導の元、着物の種類、内容、着付けも少しずつわかるようになった。これ等の活動は私の生活の中の大切な一部分として、精神的な支えにもなっている。

入院してその大切な支えが少しずつ私か

5月、観光旅行で訪れたメキシコで、現地の日本語教育に接する機会を得た。

首都メキシコシティの中心部から車で約30分、日本の古都を思わせる緑と和風の建物。そんな静かなたたずまいの日墨協会の敷地内に、「日本語教室」はあった。

この日本語教室は1~4月、5~8月、9~12月の3学期制で、それぞれ募集を行い、各期とも100名以上の学習希望者があるとのこと。日系人がほとんどと思いきや、学習者のほとんどがメキシコ人で、日系人の学習者はわずか全体の13%だそうだ。メキシコ人が日本語を勉強するきっかけとなったのが日本のアニメというのも意外だった。



土曜日は、12名(うち日系人1名、メキシコ人1名)の教師が初級6レベル、中級2レベルを担当し、週一回3時間の授業を行っている。私が見学した木曜日はたまたま学習者が少ない日で、日本人を御主人に持つ婦人が授業を受けていた。彼女は、「みんなの日本語I・II」が修了したレベルで、1つ1つの文型・表現を丁寧に確認しながら、正しい日本語を話す人だった。ほとんどの学習者の授業は土曜日に行われ、日墨協会内の教室も利用されている。それぞれのクラスは「い組」「ろ組」「は組」...と名付けられており、初級の教室には50音表、日本地図なども貼られていた。

「困っていることは？」と尋ねると、教材入手が困難(日本から送ってもらうと送料が高い)ということ。また、お国柄なのか、学習者の遅刻が多いのも悩みの種らしい。しかしそれまたぶんメキシコ人特有の情熱でカバーされているのだろう。

日墨協会HP <http://www.kaikan.com.mx>

ボランティアの声

太陽と情熱と日本語と

会留美子

やさしい日本語 (江東区)

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局



〒162-0823東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNo.4

TEL : 03-3235-1171

(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp (変更)

URL : http://www.tnvn.jp/ (変更)

事務局は下記の通り活動しています。

◆日時:毎週金曜日

第1、第3、第5、金曜日午後2時～4時

第2、第4、金曜日午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

TNVNへの入会を希望する方

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

◆入会手続

申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。E-mailでも申し込みます。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費

正会員:年会費3,000円

協力会員:年会費2,000円

賛助会員:年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
(通信欄に『年会費』と記入)

日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがおこたえます。電話でご確認の上、お気軽におこしください。またE-mailでも応じております。

! TNVNのホームページ URLが変更になりました

新しいURLは、
<http://www.tnvn.jp/> です。
メールアドレスも、
webadmin@tnvn.jp となります。

日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
飯田橋セントラルプラザ10階会議室
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費

1回600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしください。

◆日程・内容

同じ月の講座はほぼ同じ内容です。
2日の内、いずれかを受講下さい。

◎9月/日本語ボランティアとは?

9月12日(金) 午後2:00～4:00

9月26日(金) 午後6:00～8:00

◎10月/地域での日本語ボランティア活動

10月10日(金) 午後2:00～4:00

10月24日(金) 午後6:00～8:00

◎11月/日本語学習をどのように支援しているか。

11月14日(金) 午後2:00～4:00

11月28日(金) 午後6:00～8:00

◎12月/日本語ボランティア活動の事例

12月12日(金) 午後2:00～4:00

12月26日(金) 午後6:00～8:00

ホームページの「ボランティア日本語教室ガイド」をご活用下さい。

ホームページ掲載の「ボランティア日本語教室ガイド」へのアクセスが非常に多く、「ボランティア教室で日本語学習を希望」「日本語学習支援のボランティアをしたい」等の方々が、ボランティア日本語教室を検索し、E-mail アドレスのあるTNVN会員団体に直接、問い合わせのメールを寄せています。

TNVN事務局にも多数の問い合わせがあります。その中から見えてくるのは、日本語ボランティア教室を頼りに日本語を学びたい人々が非常に多く、その活動に期待されているということです。学習希望者は一地域だけでなく、東京都および周辺の広域にまたがる複数のボランティア日本語教室を同時に求めています。ここには個々の教室活動の事情が窺えます。

TNVNでは助成金で冊子「ボランティア日本語教室ガイド」を3回作成してまいりました。2000年7月に最終版を発行し、既に3年以上が経過し、中には教室の活動内容や連絡先が変更されても訂正ができず誤った情報となり、また冊子の手持ちが無くご迷惑を掛けています。最新版の発行を計画していますが、助成金等からの資金確保がネックとなっています。

ホームページ掲載の「ボランティア日本語教室ガイド」を大いに活用下さい。

ホームページ掲載内容をご確認の上、訂正が有ればTNVN宛ご連絡下さい。

また未掲載の会員団体で登録可能なE-mail アドレスをお持ちでしたらご連絡下さい。

●新会員のご紹介

◎正会員

◆日本語ぐるりっと
(こどものための日本語教室)

◆JIS

◆多摩市国際交流センター

◎協力会員

一二三朋子様

*2003年8月15日現在の会員数

正会員 59団体

協力会員 84名

賛助会員 4団体

編集/岡田美奈子、梶村勝利、木村茂、床呂英一、西岡暉純、林川玲子、山本敬子
レイアウト/鶴田環恵